

勝ちどき橋 渡れば
浪花節でも
聞こえそうな

声 粹
が な
す 親
る。 父
の

三味線の音風に柳ゆれ
姐さん、これからどちらまで。

向こう三軒両隣りは
人なっっこそうな、笑い声がこぼれてくる。
さんま焼けたか。粹な親父の音がする。

相変わらずの人達が
今も昔も泣き笑いのここが下町。
さんま焼けたか。粹な親父の音がする。